



くわた 恭子通信

<http://kyoko.moo.jp> zxkyoko@yahoo.co.jp

発行日	H26年11月15日
発行者	前広島市議会議員 くわた 恭子
〒731-5153 佐伯区河内南2-30-2	
TEL	929-2930 FAX929-2928
OPEN	9時~12時(月・水・金)

[無所属]

地域の皆様 いつもお世話になっております。前広島市議会議員のくわた恭子です。
立冬とむね、朝晩 寒くなつてまいりましたね お元気ですか...

8月20日、広島市北部を襲った豪雨災害、74人もの尊い命が犠牲となりました。
 現在も多くの方が不自由な生活を送られています。ご冥福と一日も早い復興をお祈り
 いたします。あの日、私は、仕事を終えて午前3時ごろ車で帰宅していました。
 廿日市方面はそれ程激しい雨は降っていませんのでテレビ報道でお知らせしました。
 報道を見るにつけ15年前の6.29豪雨災害を思い出しました。佐伯区の河内地区、穂積
 地区を中心とした局地的な豪雨。安佐北、安佐南、佐伯区で20人の方が亡くなり、河内
 小学校の体育館では長い間避難生活をされていました。小学校の運動会は北
 地域の行事もすべて自粛されました。そんな中、避難生活されている河内の子ども達を招待
 して、ナイトツアーと夜店を行いました。地域の方々の理解と河内学区保護者の方々の協力が
 あって実現できました。災害時子ども会として何かできるのか、泣き出す役員と会議をしたこと
 忘れられません。私のボランティア活動の原点となった年で、災害から3ヶ月近く経過していま
 す。復旧は、まだまだ時間がかかるものと思います。多くのボランティアと行政の支援を期待し可



8/16、17、子ども会で芸北に
キャンプに行きました。160本
のペットボトルで作ったいかた
で、川遊びをしました。
みんな大満足でした。

避難勧告の遅れ！15年前の経験は生かされなかった

まず初めに、深夜災害警戒本部が立ち上がるのは何のためか、情報収取のためではないのか。そこで重要なFAXを見落とす。パソコンの情報を見落とす。情報が重なり見落としたとある。午前2時前にどれほどのFAXが来ていたというのだろう...

次に、発令に踏み切れなかった避難勧告、●被害がなかったらオオカミ少年になる。●夜間のゲリラ豪雨の中避難させるのは危険。●避難勧告は避難所開設とセット、深夜で開設に時間がかかる。●今後の気象予報も勘案したい。との理由から、午前1時15分、広島県と気象台が土砂災害警戒情報が発令されても、午前3時21分、初めの犠牲者男児2人が生き埋めになっても、避難勧告は出されなかった。勧告が発令されたのは、安佐北区で午前4時15分、安佐南区で、午前4時30分、それぞれ、副区長、区長が自宅から区役所にたどり着いた直後の発令となっている。

1999年6月29日の豪雨災害、広島市で11人の方がなくなっている。国が土砂災害防止法を制定する契機となった災害。この時も避難勧告の遅れが指摘、呉市より14時間も遅れたことが避難された。「客観的基準で勧告が出されるシステムづくりが不可欠」これにより基準は見直され、5つの要件を明記、今回2つを満たしたが発令は見送られた。広島市が設置した外部の検証委員会の報告では「午前2時半には、避難勧告を出すことができた」とある。システムは、情報を見落とすことや、責任ある人間がその場にいないことを想定していない。

市長はもっと早く登庁するべき

何のために、経費がかかるのに、本庁舎に近いところに市長官舎を維持しているのか・・・
今回のような事態にいち早く対応、指示命令を発するためではないのか。午前3時21分、安佐南区で男児2人が生き埋めになり午前4時過ぎ安佐北、安佐南に遅れた避難勧告が出された、さらに3時間後の市長の登庁。市長は官舎でどんな情報を得ていたのかと思う。

報道は、市長が災害の情報を聞いたのは午前3時過ぎ、寝たり起きたりしながら情報をとっていたと、会見で答えている。結局、情報はすべて秘書経由、消防局長と会話をしていない。避難勧告は区で対応、区長や副区長が発令している。自衛隊の要請も、対策本部の職員が県に要請...これらに対して市長は、今回の避難勧告の判断については、防災計画のマニュアルに基づいてしっかり対応しているとの記者会見の弁、被災地の市長の言葉とは思えない。さらに登庁時、激しい雨の中、身の安全を憂慮しながら移動したとある。この時間帯、市長官舎付近の雨量計は0ミリ

自分の命は自分で守る！

議員時代、土砂災害の指定区域の地元説明を何度も傍聴してとある。その時、広島市の消防から「自分の命は自分で守る」などの緊急時、頼りにするのは自分と身近にいる者。即ち合して何れも災害から遠いところへ逃げなければならぬ。

深夜の避難勧告は被害を拡大する見方はどうだろう... 確かに兵庫県で不適切な勧告と裁判になっている例もある。今回夜中の暗闇の中、小学校に避難して助かったとある。情報発信するのは行政の使命と思う。迅速な避難勧告から犠牲者を減らせることではないかと思う...

地域で行っている防災訓練。今回の災害で役に立たなかったとの自治会長のコメントもあった。緊急時の訓練はやはり必要。この時点で誰が何をやるのか、地域で起こる災害を想定して訓練もものを見直すことも大切と思う。

再び起きた国保料金の徴収ミス

広島市は正しい保険料総額を把握していない！

●過去のミス

平成22年2月、国保世帯の約半分
96000世帯で徴収ミスが判明、

平成20年度の保険料において後期高齢者支援分の金額を間違っ
て算定、総額で4億2500万円少なく徴収して
いました。翌年平成21年度分の保険料の計算をしていて
間違いに気づいています。原因は、プログラム作成の委託
業者に提示した仕様書が間違っていた。業者から出された
テストデータの確認を職員1人が行っていました。

●今回のミス

平成26年9月12日、国保世帯
17万世帯の約6割、約10万世帯

に35億円多く請求していたと発表しました。
市は、本年度から所得割保険料の算定方式を市民税方式から
所得方式に変更、所得方式の保険料率を算定する際、国から
補てんされる低所得層への軽減分、約35億円を請求額から
減額するのを忘れたことです。

単純計算で1世帯約35000円の増額、報道では昨年より
20万円も増額になった世帯もあるとしている。
最初の納付通知書が届いた6月中旬から月末までに計2万
3800件の苦情が殺到、市は追加の緩和措置を検討する
ため保険料の検証作業を行っていた。その過程で8月中旬、
計算ミスに気づいたと発表している。

●ミスの原因

この件で、保険年金課との質問の
やり取りでは・・・

- ①まずは、担当者の事務処理の初歩的なミスが原因と回答
管理監督者にも大きな責任があるとしている。
- ②国保システムから出力された保険総額が、担当課で算出
した間違っ
た保険料との確認はしたが、国が補てんする約
35億円は保険年金課の誰も気が付かなかつた。
そのためシステム上エラーチェックをかけようがないので
分かる筈がない。また、算定方法の変更で、昨年との比較
ができないので過大請求に気づかなかつたと釈明。

●再発防止はウソ

4年前の徴収ミスは
当時、金額も影響

世帯数も前代未聞と、この通信28号に書きました
今回はけた違いの金額です。前回の再発防止とは
事務執行体制の強化や業者との委託契約の見直し
独自のチェックリストを作成確認を徹底させる。
職員の研修など行われたようですが、回答の中に
再発防止に取り組んできたが、数年が経過した中
職員の業務に対する取り組み姿勢や、緊張感が薄
まっていたとしています。

このような事業が起きると、システムが不備であったか
のような答をよく聞いてきた。今回はシステムエラー
云々の話ではない。国からの補てんそのものを忘れた
に似る... また担当者の初歩的な事務処理ミスとも答
えていたが、エラーを見抜くのも初歩的なミスを見抜く
のも管理職の仕事ではないのかと思う。

そもそも今年度の保険徴収総額はいくらと見込んで
いたのか。算定方式の変更になったのなら昨年と比べ
た方が、事前に料率を決める際に比較作業を行って
普通。しかし、今回も保険料率算定時には比較作業
を行っていません。追加の徴収緩和を実施するため
比較作業でミスが判明しています。

担当課において概算でも正しい数字を持っていないと
システムから出力した数字も、平職員が持つ数字
も判別できない。回答からは何か原因でミスが起
ったのかは聞いていない。ミスは繰り返される気がある...

緊張感がなくなっている・・・！

前回の選挙から3年半、議会離れて多業に専念する
以外の行動は、依然とほぼ変わりない生活...
今は日田市で家族とコンビニを経営している。
議会はネットで傍聴する程度。ある議員のホームページ
に市長はおいに職員が明るくなると言われるが、
ただ、たぶんいないにけだと言いつつとある。

工場の災害、情報を集める仕事をしているにもかかわらず
情報を見落す。国保料率を算定する仕事をするのに
料率を間違える。市長の言う初歩的なミスと言っているのに
どうも。広島市の職員は担当職員も管理職のほうが多い。
4277は充実しているはず。議会も市長や党が過
半数を占め議案はすくなく可決。安佐市民病院
たけなほ例外に見えた。景気の良さに関係なく
消費税はよっていく。世の中は結構大変です。議会や行政
が別世界になってほしくない。

納税者がどんどん減っている！

①人口は10年前の平成16年が1億2769万人。平成26年は
1億2709万人、10年間で約60万人減少。(10/1時点)

単位万人	0~14歳	15~64	65~	合計
H16	1773	8508	2488	12769
H26	1624	7784	3300	12709

増は高齢者65歳以上で812万人。減少は子ども14歳以下で
-149万人と働き手15~64歳-724万人、合計約873万人減

②格差の拡大 若年者に多い非正規社員の増加
国税庁の民間給与実態統計調査結果(平成25.12.31)
によると労働総数約5535万人。1人当/年収約362万円
この内1年を通して勤務した給与所得者は4645万人
(非正規を含む)平均給与は正規社員年間473万円、
非正規は168万円。さらにこの内納税者は約3897万人
働き手人口の約50%にとどまる。

地元から 70野球選手

先月末のプロ野球ドラフト会議で日本ハム入団が決まった有原航平選手、出身はこの佐伯区彩が丘
身近からプロ野球選手が出るなんてすごいと、家族で密かに盛り上がっていました。ほかにも、
息子の同級生の高畑志帆さんは2014年サッカー日本女子代表選手！こちらもすごい！応援しよう

... 今回も文字が多すぎておぼろげに... みな様の意見をまちしています...